

(様式第4号)

上田市環境審議会 会議概要

1 審議会名	上田市環境審議会
2 日時	令和5年12月22日 午前10時00分から午前12時15分まで
3 会場	市役所本庁舎 会議室 301-302
4 出席者	高橋伸英会長、川田富夫副会長、小林泉委員、山崎元子委員、和田宏一委員、遠藤隆幸委員、吉川由紀子委員、北條作美委員、土川哲志委員、中原夏江委員、堀内百合子委員、浅輪剛博委員
5 市側出席者	【環境部】田中環境部長 【環境政策課】西澤課長、中村課長補佐兼セカンド推進担当係長、片上課長補佐兼環境保全担当係長、渡邊セカンド推進担当兼環境保全担当係長、母袋セカンド推進担当主任、小宮山セカンド推進担当主事、原田環境保全担当主事
6 公開・非公開	公開 ・ 一部公開 ・ 非公開
7 傍聴者	0人 記者 0人
8 会議概要作成年月日	令和5年12月22日

協議事項等

1 開会	
2 委員委嘱書交付	
3 会長、副会長の選出について	・会長に高橋伸英委員、副会長に川田富夫委員が選出された。
4 議事	(1) 令和5年度環境レポートについて ・資料に沿い、中村課長補佐から令和5年度環境レポートの概要説明 ・以降、協議
(委員)	上田市役所からの温室効果ガス排出量について、上下水道部局で増加した理由は何か。
(事務局)	下水道については、下水汚水の性質が変化し、浄化するまでの処理時間が長くなったことが原因と考える。上水道については、ポンプによる取水量の増加などが考えられる。
(委員)	農業用水路(指標II-2-01)について、ため池も対象に入っているか。また、ため池の土手は傾斜が急であり人手が高齢化していることもあり、整備を機械化できないかと考えているが、どこに相談をすればよいか。
(事務局)	今回の農業用水路については、市の事業のみの集計であり、ため池の整備は県の事業であることから対象には入っていない。整備の機械化等について、まずは市の農地整備課にご相談いただければと思う。
(委員)	雨が降るとその集水域の田畑等で散布された農薬等が河川へ流入することになるが、そうしたことによる河川の生態系への影響はどうか。昨年度、トビケラの成長が遅かったように感じる。改めて水質検査等を個別でやることできないか。
(事務局)	レポートで報告した地点については、測定項目の環境基準値の超過は認められていない。特定の地域の水質汚濁は上田地域振興局環境課で監視しているため、そういったご意見があったことを県の方へ共有する。また、他に特定の場所については相談いただきたい。
(委員)	ゴルフ場等、除草剤を多く使うような場所から水質検査について問題ない旨の報告はあったか。
(事務局)	ゴルフ場からは報告があったが、それ以外の特定の各場所からの報告はない。
(委員)	水質検査等の相談を市から長野県環境保全研究所にすることはできないか。
(事務局)	市としては、まずは上田地域振興局環境課に相談し、必要に応じて環境課から環境保

全研究所に相談をする形となる。

(委 員) 資料 10 について、冬季は融雪剤として塩化カルシウムを散布するが、それらが河川に流入するといったことは把握しているか。

(事務局) 直接は把握していないが、塩化カルシウムが河川に過度に流入していれば、塩素濃度と電気伝導度の数値が高くなると思われる。問題ないとする。

(委 員) 数値を見ると、現に、冬季は他の時期と比較して数値が高く出ているように感じる。

(委 員) グラフ等にして水質検査項目を示す等、見せ方について検討してほしい。

(事務局) 数値については、改めて確認したい。また、水質検査項目全てをグラフ化すると紙面の問題も出てくるため、見せ方については検討したい。

(委 員) 井戸水検査は年に何回行っているのか。

(事務局) 年に 1 回、例年 10 月又は 11 月頃に実施している。

(委 員) 年に 1 回ということであれば、季節によって数値が変化してしまうのではないか。

(事務局) 気候的に安定しているため、この時期に測定している。

(委 員) 資料 18 の内村川の水質検査結果について、三才山トンネルの無料化の前後で比較してほしい。

(事務局) 今後、検討していきたい。

(委 員) 資料編の数値全般について、それぞれの項目がどういったものか、また、検査結果の数値が良いのか悪いのかが分からないので、初めて見た人にも分かるようにしてほしい。

(事務局) 体裁等について、分かりやすくできるよう検討する。

(委 員) 資料編について、基準値がないものについて、なぜ測定しているのかが分かりにくい。

(事務局) 基準値がないものについては、水質の傾向を把握するために測定している。

(委 員) 全国的に、水道水中の PFAS (有機フッ素化合物の総称) 濃度について問題視されている。市で測定しているか。

(事務局) PFAS は、非常に安定した化合物で発がん性がある可能性があるとされている。上田市の水道水については 3 年前から監視しており、基準値を超えたことは 1 度もない。

(委 員) 道路騒音 (指標 I-1-01) の測定について、7 地点とあるが、毎年測定場所は変えているのか。

(事務局) 定点が 5 地点、毎年変えている場所が 2 地点である。

(委 員) 毎年変えている 2 地点はどういった基準で変えているのか。

(事務局) 道路の面的評価を行うにあたって、5 年で 1 周できるように測定地点を変えている。

(委 員) 基準値が超過している地点の測定が単年で終わってしまっている。超過した地点について継続的に測定しないか。

(事務局) 超過した地点については、継続的に測定し続けることを検討する。

(委 員) 騒音基準値の超過があった場合、国への要望は上げないのか。

(事務局) 高速道路については、NEXCO 東日本、新幹線については JR 東日本に要望している。

(委 員) 騒音問題について、市民から改善の要望は来ているか。

(事務局) 現在、道路騒音に関する相談は特段ないが、基準値を超えている場所があることは事実なので、継続して監視を続けていく。

- (委員) 指標 IV-2-03 (街路樹の植栽延長) について、街路樹の植栽延長は伸長していない。落葉の処理等の問題もあるが、今後温暖化の影響で気温が上昇することが確実視されているので、CO<sub>2</sub>吸収源対策としても伸長して行ってほしい。
- (事務局) 低木のものも含め、街路樹として市が整備している。県道については、県整備のため、実績値には含めていない。担当課に共有し、伸長するように努めていきたい。
- (委員) エコハウスについて、小中学校が社会科見学できる施設又は一般の人が見学できると施設となっているのか。
- (事務局) エコハウスは上田クリーンセンターの敷地内にあり、ごみの減量や再資源化について関心を持っていただき、リサイクル活動や物の大切さを体験してもらうことを目的として、展示や実践活動を行っている施設である。毎年、小学校4年生がクリーンセンターに社会科見学に来る際、エコハウスも見学してもらっている。一般の方も随時見学できる。
- (委員) 地球温暖化対策や脱炭素社会の実現について PR していくことはできないか。
- (事務局) エコハウスが設立された目的はごみの減量化であるが、御意見として担当課に共有したい。
- (委員) 上田市関係機関からの CO<sub>2</sub>排出量について、市民の森のアイススケート場が廃止になり、古戦場のテニスコートが新設予定等、年度によって施設数に変動するので単年度ごとで比較するのが難しい。小中学校や民間企業にも節電を呼びかけていくべきである。
- (事務局) 施設ごと使用量を年度ごとに把握しているので、特定の施設について比較することは可能である。市の事務事業に伴う CO<sub>2</sub>排出量の削減目標等を定める計画(地方公共団体実行計画事務事業編)を、今年度改定し、太陽光パネル導入や LED 改修等の施策を進めていく予定である。職員の残業についても、やる日とやらない日を明確化し、不要な電気の削減を図るなど、関係課と調整していきたい。
- (委員) 温室効果ガスの削減を市として見本を見せる姿勢が大切である。削減に向けて取り組んでほしい。
- (委員) ごみの排出量について、一人当たり排出量が増加している。中心市街地とそれ以外の地域を比較すると排出量も異なると思う。生ごみ処理機に対する補助で一定の削減効果は出ていると思う。
- (委員) 以前は枯れ葉を燃やしたりしていたが、今は野焼きができなくなったため、可燃ごみとして捨てている。その分でも増加していると思う。
- (委員) 枯れ葉の処理に苦勞すると聞く。枯葉の収集方法を検討するべきと思う。
- (事務局) 令和4年度については、コロナ禍明けによるゴミ排出量が増加した可能性がある。
- (委員) コロナ禍という要因以外でも分析できると良い。
- (委員) 堆肥化施設の建設が予定されていると聞いたがそれはどうか。
- (事務局) 陣場地区において有機物リサイクル施設を整備する計画がある。生ごみや牛糞等を焼却せずに堆肥化し、農業利用につなげる取組である。
- (委員) 生ゴミのみ注力するのではなく、その他の不燃物等のゴミについても同様の比率で減らすべきである。
- (事務局) 紙の再資源化等、可燃ごみ以外のゴミの削減に向けて周知していきたい。
- (委員) 紙おむつの処理対策はあるか。
- (事務局) 紙おむつのリサイクルについて、先進事例を視察するなど、企業の動きを注視していきたい。

- (委員) 環境指標取組状況の各指標に、資料編の何ページかを追記しどこを見れば良いかわかりやすくしてほしい。
- (事務局) 追記するようにしたい。

## 5 報告事項

### 脱炭素先行地域の選定について

- ・資料に沿い、中村課長補佐から脱炭素先行地域の選定について概要説明

(委員) 計画概要について全く周知されていない。大きな事業であるのに対し、市からの一方的な報告にとどまっている。審議会で進捗状況を報告することが必要だと考える。今年度にもう1回開催する必要があると思うが、他の委員はどうか。

(委員) 環境レポートの測定項目等の説明がなく、理解しきれない部分が多かった。他の指標項目等にも質問したかったが、時間が足りなかった。年度末でも構わないので、説明してほしい。

(委員) 脱炭素先行地域についてもそうだが、計画内容等を説明されても、その背景の理解度によって、受け止め方は異なってくる。前年度に上田市地球温暖化対策地域推進計画を改定したが、その進捗状況についても、本来、審議会で報告する必要があると考える。一方で、1期目の委員の中には、計画策定の過程や内容を知らない委員もあり、配慮が必要と考える。

(事務局) 後日、会長、副会長と相談し、今後の方針について決定していきたい。

## 6 事務連絡等

## 7 閉会